

序

『平城宮出土墨書土器集成II』より13年の時をへて、『平城宮出土墨書土器集成III』を刊行する。

今回、収録した資料は、13年間の発掘で出土した墨書土器1017点である。掲載資料はいずれも発掘調査報告書にさきだって公表するものであるが、これは墨書土器が木簡と並ぶ出土文字資料として、平城宮研究の基礎的な役割を担うとの考えにもとづいている。詳細に検討すべき遺構の性格や時期などについては、報告書の刊行をお待ち願わねばならない点は、御了承いただきたい。

このたびは「刑部省」や「宮内省」といった役所名を記した墨書土器とともに、習書とみられる難波津の歌や戯画など、奈良時代の人々をいきいきと映し出す資料が含まれている。

既に入梓したものと合わせると、これまで計3232点の墨書土器が『平城宮出土墨書土器集成』に収録されたこととなる。墨書土器もまた、世界遺産である平城宮跡が有する貴重な歴史資料であることは疑うまでもない。今後、平城宮跡の調査が進むにつれ、さらなる増加が期待される。

このたびお届けする『平城宮墨書土器集成III』も、『平城宮木簡』などとあわせて平城宮の文字研究に大いに御活用いただければ幸いである。

2003年3月

奈良文化財研究所長

町 田 章